

琉球大学学術リポジトリ

樺太之水産 樺太廳内務部編纂

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 昭和3年6月 重複して2冊あり 資料形態 : 菊判 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38420

矢内原忠雄文庫

史料名	昭和三年六月 樺太之水産 樺太廳内務部編纂
封筒番号	426
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 18 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：426

史料名	昭和三年六月 樺太之水産 樺太廳内務部編纂
資料形態	菊判
枚数	15
頁数	29
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	樺太 重複して二冊あり 今泉分類記号：P

樺太之水産

昭和三年六月

- 一、漁業製造状況
- 二、養殖製造状況
- 三、水産物検査状況
- 四、水産ニ關スル組合
- 五、水産試驗場
- 六、水産物總價額
- 七、水産動植物分布及期節
- 八、漁業者戶數及漁船數



1/10

一、漁業制度

樺太ニ於ケル鯨鮭ノ漁業ハ遠ク松前氏ノ蝦夷ニ封セラレタル時代ニ於テ既ニ邦人ニ依リ行ハレタリシカ明治八年千島樺太交換條約ノ結果樺太カ露領ニ屬シタル後ニ於テモ漁業ハ依然トシテ邦人ニ依リ經營セラレタル歴史ヲ有ス而シテ鯨鮭ノミナラス其他ノ魚族亦尠カラサレハ水産ハ樺太ニ於ケル唯一ノ富源ト目セラレタリ故ニ明治三十八年樺太ノ邦領ニ歸スルヤ水産行政ハ最重要視セラレ殊ニ主要魚族タル鯨鮭ニ付テハ其ノ魚利ヲ永遠ニ保持シ該漁業ノ健全ナル發達ヲ期セムカ爲メ建網制度ヲ採用シ其ノ漁場ハ露領時代ニ設ケラレタル漁區ニ基キ之ヲ定メ邦人ノ經營シタル漁場ハ從來ノ經營者ニ免許シ其他ノ漁場ハ競争入札ニ依リ漁業者ヲ定メタリ鯨鮭以外ノ漁業ニ於テハ鯨鮭ノ蕃殖保護ニ妨ナキ範圍内ニ於テ一般ニ之ヲ許可シタリト雖是等ノ漁業ニ從事スル者ノ多クハ資力乏シキ樺太定住ノ漁業者ニシテ其ノ漁業ノ收益ハ鯨鮭ニ比シ尠ク生計ノ維持困難ナル狀況ニ在リシヲ以テ大正四年漁業法規ノ一部ヲ改正シテ樺太定住ノ漁業者ヲ以テ組織スル漁業組合ニ對シ鯨鮭ノ專用漁場ヲ免許シ其漁業組合員ヲシテ一般漁業ニ從事スルノ傍ラ鯨鮭ノ漁利ニ均霑セシメ以テ漁業經濟ノ一端ヲ補ハシメタリ超エテ大正十年專用漁業ノ數ヲ増加シ漁利均霑ノ實ヲ擧グルニ努メ更ニ大正十一年及大正十五年兩度ニ跨ル漁業法規ノ改正ニ依リ漁業免許ノ入札制度ヲ廢シ其ノ他漁具漁法等モ從前ニ比シ漁制上改革セラレタル點少カラ

更ニ小建網又ハ地曳網ヲ使用セシムルコト、成レリ
 其ノ他大正十一年以來漁業組合員ニ限リ配繩ノ使用ヲ許可セラルルニ至レリ
 鱒ハ冷蔵ニ依リ内地及島内各地ヘ生賣セラルルモノ及罐詰原料ニ供スルモノ次第ニ増加スルニ至レルモ
 尙其ノ大部分ハ漁業者ノ手ニ依リ鹽鱒ニ製セラル

鱒 漁 獲 高

(生鱒重量ニシテ一尾三百四十
 六匁トシテ計算シタルモノ)

年度	支離別		支離別		支離別		支離別		支離別		計
	香	元	泊	豊	原	大	本	斗	真	岡	
大正十四年	5,686	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
大正十五年	2,517	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
昭和二年	1,555	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332

鱒 製 品 及 生 賣 昭和二年(單位ハ貫、罐詰及油ハ匁)

品 種	支離別	支離別		支離別		支離別		支離別		計
		香	元	泊	豊	原	大	本	斗	
鱒 鹽	香	2,488	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 筋	元	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 罐	泊	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 詰	豊	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 油	原	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	大	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	本	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	斗	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	真	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	岡	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	居	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
鱒 計	計	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332

鮭
 鮭ハ夏期ト秋期トノ二期ニ漁獲セラレ前者ヲ夏鮭又ハ時しらすト稱シ後者ヲ秋あちト稱ス鮭ハ多量漁獲
 ヲ見ル區域狭ケレトモ豊凶ノ差大ナラス夏鮭ハ東海岸敷香附近ヲ主産地トス該地方ニ在リテハ一漁場ニ
 テ漁獲高六萬貫内外ニ達スルモノアレトモ其ノ他ノ地方ハ甚タ稀薄ナリ秋鮭ハ西海岸内部ニ位スル多聞
 泊、麻内、阿幸及南名好川附近並東海岸ニ於ケル内淵川附近漁場ニ多産シ一漁場三萬貫以上ヲ漁獲スル
 モノアリ

本漁業ニ使用スル漁具ハ配繩ヲ除ク外ハ鱒漁業ト同一ナリ
 鮭ハ鱒ト同ク其ノ大部分ハ漁業者各自ニ依リ鹽鮭ニ製セラレ其ノ一部ハ冷蔵ニ依リ生賣セラレ又罐詰原
 料ニ供セラレ、近時鮭燻製品ノ製造ヲ企圖スルモノアルニ至リシト雖尙其ノ産額多カラス

鮭 漁 獲 高

(生鮭ノ重量ニシテ一尾九百五
 十匁トシテ計算シタルモノ)

年度	支離別	支離別	支離別	支離別	支離別	支離別	支離別	支離別	支離別	計
	香	元	泊	豊	原	大	本	斗	真	岡
大正十四年	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
大正十五年	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332
昭和二年	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191	18,332

年度	支額別	數	香	元	泊	疊	原	大	泊	本	斗	眞	間	泊	居	計
大正十四年		一〇、九七五	一、七〇八	三、〇〇一	六、四三三	四、〇七九	二、五九一	三、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	三、五九一
大正十五年		三、五九一	四、〇七九	六、四三三	三、〇〇一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	三、五九一
昭和二年		二、五九一	四、〇七九	六、四三三	三、〇〇一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	二、五九一	三、五九一

鮭製品及生賣

昭和二年(單位ハ貫、圓、分、厘)

品種	支額別	數	昭和二一年(單位ハ貫、圓、分、厘)											計		
			香	元	泊	疊	原	大	泊	本	斗	眞	間		泊	居
鮭	生	一、〇〇〇
鮭	賣
鮭	計

鮭ハ全島沖合一帯ニ之カ棲息ヲ見サルナシト雖就中其ノ主産地ト稱セラルルハ西海岸ニ於ケル野田方面ヨリ南方武意泊ニ至ル間ニシテ該地方ニテハ夏期三月ヲ除クノ外本漁業ニ従事セリ同地方ニ於ケル盛漁期ハ所謂春漁季節即二月ヨリ六月ニ至ル時期ニシテ此期間ニ於ケル漁獲高川崎船一隻ニテ三萬尾乃至

四萬尾發動機付漁船一隻ニテ五萬乃至十萬尾ノ多量ニ及フ十月ヨリ翌年一月ニ至ル秋冬漁ハ出漁日數等ノ關係上漁獲高春漁ノ半ニ達セス近時在來ノ川崎船ニ依ル漁法ヲ改善シテ發動機付漁船ヲ使用スルモノ多數ニ達シタルト一面亞庭灣内漁村ノ夏及秋鮭漁業東海岸中部以南漁村ノ秋鮭漁業次第ニ發達シタル爲逐年其漁獲高ヲ増加スルノ趨勢ニ在リ而シテ本漁業ハ専ラ配種漁業ナリトス

鮭ハ主トシテ棒鮭ニ製スレトモ夏季温暖ナル時期ニ於テハ主トシテ搾粕又ハ開鮭ニ製セラレ冬期ハ鹽鮭トシテ毎冬三百萬尾以上移出セラル尙棒鮭搾粕開鮭ノ外歐米輸出向鮮特ニ「ストックフイツンユ」ノ製造ハ大正六年ヨリ企業セラレ大正八年ノ如キ其ノ年産額二十五萬五千貫ノ多キニ達セシヨトアリト雖大正九年以降歐米市場ノ變動ト一般經濟界ノ打撃トニ依リ其ノ事業ヲ緊縮セルヲ以テ産額頗ニ減少シ現時歐米輸出向製品ノ製造ハ殆ト休止ノ状態ニ在リ

鮭ノ副産品タル鱈肝油ハ主トシテ肝油製造業者ニ依リ製造セラレ主要ナル鱈漁業地ニ其ノ工場ヲ見サルハナシ製品ハ工用油及藥用肝油ノ二種ニシテ其ノ産額大正十年以降市價暴落ノ結果製油量著シク減セシト雖毎年二萬圓ニ達ス

鮭漁獲高

(生鮮ノ重量ニシテ一尾八百)

年度	支應別	數	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	真	岡	泊	居	計
大正十四年					二六		五二七			一〇,〇〇〇		五,八三三			二,二二〇	八,〇八三
大正十五年					三六		五四三			一〇,〇〇〇		四,九六六			三,二二五	八,〇〇〇
昭和二年					六〇		四三六			六,八三三		四,七三三			二,六九七	八,〇〇〇
計					一二二		一,五〇六			二六,八三三		一五,五三二			八,〇〇〇	四〇,〇〇〇

鱈製品及生賣 昭和二年(單位ハ貫、油ハ匁)

品種	支應別	數	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	真	岡	泊	居	計
鱈身																
鱈骨																
鱈肝																
鱈油																
鱈粕																
計																

鯨ノ種類ハ十數種ニ及ビ到ル處之カ棲息ヲ見ル本漁業ハ延繩及手網漁業ノ二種ナリシモ最近發動機船ニ依ル底曳網漁業續出セリ鯨ハ生賣セラルルノ外ハ悉ク搾粕ニ製造セラル

鯨漁獲高 (注: 噸ノ重量ニシテ百石ヲ二万貫トシテ計算シタルモノ)

年度	支應別	數	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	真	岡	泊	居	計
大正十四年				八,八八六		八,八八六		一七,七七二		一七,七七二		三五,五四四				八,八八六
大正十五年				五,一三〇		五,一三〇		一〇,二六〇		一〇,二六〇		二〇,五二〇				五,一三〇
昭和二年				三,一〇〇		三,一〇〇		六,二〇〇		六,二〇〇		一二,四〇〇				三,一〇〇
計				一七,一一六		一七,一一六		三四,二三二		三四,二三二		六八,四六四				一七,一一六

鯨製品及生賣 昭和二年(單位ハ貫、油ハ匁)

品種	支應別	數	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	真	岡	泊	居	計
鯨油																
鯨粕																
計																

及加里製造業ハ大正六七年頃各海岸到處盛ニ從業セラレシモ一時全ク休業ノ狀態トナリタルモ昭和二年ニハ二ヶ所ノ着業ヲ見タリ

昆布製品 昭和二年

支離別	品種						計	價額
	反切昆布	長切昆布	花折昆布	島田昆布	端折昆布	其他		
敷	100	100	100	100	100	100	600	
元	100	100	100	100	100	100	600	
泊	100	100	100	100	100	100	600	
豐	100	100	100	100	100	100	600	
原	100	100	100	100	100	100	600	
大	100	100	100	100	100	100	600	
泊	100	100	100	100	100	100	600	
本	100	100	100	100	100	100	600	
斗	100	100	100	100	100	100	600	
真	100	100	100	100	100	100	600	
岡	100	100	100	100	100	100	600	
泊	100	100	100	100	100	100	600	
居	100	100	100	100	100	100	600	
計	100	100	100	100	100	100	600	
價	100	100	100	100	100	100	600	
額	100	100	100	100	100	100	600	

鯨
鯨ハ春夏ノ候各海岸近クニ洄游スルモノ勢カラス種類ハ長須ヲ主トシ座頭之ニ亞ク捕鯨業ハ現在東洋捕鯨株式會社ニ依リ亞庭灣内札塔ニ根據ヲ構ヘ毎年捕鯨船一隻乃至二隻ヲ使用シ從業セラル捕獲頭數ハ年ニ依リ消長アリト雖大正十年ノ如キハ八十二頭ノ多數ニ達シ大正十五年ハ四十九頭昭和二年ハ三十九頭ヲ捕獲セリ

臘 豚 獸

海豹島ハ東海岸北知床岬ノ南方十里ニ在ル長サ二百五十間幅三十間ノ一岩島ニシテ四周ハ沙濱ヲ繞ラシ全長三百五十間幅五十間ニ過キスト雖米領「プリビロフ」並露領「コンマンドルスキー」群嶋ト共ニ臘豚獸ノ蕃殖場トシテ世界ニ併稱セラル
明治四十四年十二月日、英、米、露ノ四ヶ國間ニ臘豚獸保護條約締結セララルルヤ北太平洋上ニ於ケル臘豚獸ノ海上獵獲ヲ禁止シ各締約國政府ニ於テ年々獵獲スヘキ數ヲ定メ國際的ニ其ノ保護蕃殖ノタメ最善ノ努力ヲ拂フコトトナリ我海豹島ニ於ケル臘豚獸ノ數モ年々著シク其ノ數ヲ増シ之ニ伴ヒ分娩スル兒數亦逐年増加スルニ至レリ即チ條約締結ノ當年最大上陸頭數七千四百一頭産兒數二千七百頭ナリシカ大正六年ニハ上陸頭數一万五千五百十五頭産兒數三千九百八十八頭ニ達シ更ニ昭和二年ニハ上陸頭數二万八千九百八十八頭産兒數一万一千八百六十六頭算スルニ至リ七、八月ノ交尾期ヨリ九、十月ノ交ニ亘リ沙濱及波打際ニ群集シテ本能的ニ活動セル狀景頗ル壯觀ニシテ加フルニ沙濱ニ依リテ圍繞セララルル高サ五十尺ノ岩丘上並其ノ崖縁ニ蟬集セル海鳥ハ數萬ニ達シ臘豚獸ノ群集ト相俟ツテ眞ニ天下ノ奇觀ヲ呈ス
海豹島ニ於ケル臘豚獸ノ保護並獵獲ニ付テハ樺太廳ハ毎年吏員ヲ派遣シテ之ニ當ラシメ蕃殖上有害ト認ムル一切ノ行爲ヲ禁止スルト共ニ條約ノ範圍内ニ於テ蕃殖上關係ナキ三、四才牡獸及老牡獸ノ撲殺ヲ爲シ其ノ獸皮ハ英、米、露ノ各締約國ニ對シ一割宛ヲ分配シ肉、内臟其ノ他ハ鹽藏シ或ハ乾燥シテ國內

ニ於テ販賣セリ最近年々ノ獵獲數千五百頭内外ナリ
ニ於テ販賣セリ最近年々ノ獵獲數千五百頭内外ナリ

三、養殖狀況

本島ニ於ケル養殖ノ主ナルモノハ河川養殖ニ屬スル鮭人工孵化ニシテ孵化場ハ現在靛内川及多蘭泊川ニ於ケル應營孵化場二、靛内川、内淵川、阿幸川及麻内川ニ於ケル民營孵化場四在リ孵化装置ハ孰レモ簡易式ヲ採用シ昭和二年度ニハ二千七百十方粒ヲ採卵孵化放流セリ最近諸般ノ事業ノ勃興ニ伴ヒ鮭ノ天然蕃殖ニ障害ヲ與ウルモノ尠カラサルヲ以テ年々應營又ハ民營ノ孵化場ヲ増設シテ之カ蕃殖ヲ圖ルノ方針ヲ採レリ其他湖沼、池中及淺海養殖ニ屬スルモノニハ遠淵湖ニ於ケル寒天原藻タル伊谷草及牡蠣ノ養殖、池中ニ於ケル鯉、鮒類ノ養殖並漁業組合ノ施設ニ屬スル昆布其ノ他用藻類蕃殖保護ノ爲メノ投石籬藻去除等ノ實施ヲ見ルト雖尙ホ試験的施設ノ範圍ヲ脱セス

四、水産物検査狀況

水産物ノ改善ヲ圖ルニハ之カ検査ヲ行フヲ以テ最モ緊要ナル事項ナリトス之ヲ以テ明治四十三年西海岸南部水産組合、鮒、昆布等ノ検査ヲ實行セシヲ始トシ建網漁業水産組合、亞庭灣水産組合及罐詰業水産組合等相繼テ之カ實行ニ着手シ其ノ成績見ルヘキモノナキニ非サリシモ管下全般ニ對シテ其ノ統一ヲ缺キ未タ完全ナル検査ヲ行フヲ得サリキ仍テ其ノ統一ヲ計リ検査ノ目的ヲ貫徹セムカ爲大正三年始テ樺太

應ニ水産物検査所ヲ設置シ爾來今日ニ及ヘリ現在ニ於テハ検査員六十名ヲ沿岸各所ニ駐在セシメ一定ノ擔當區域ヲ絶ヘス巡回シテ検査ヲ行ハシム尙樞要ノ地十ヶ所ニ一名宛ノ検査主任ヲ配置シ検査ヲ爲スト共ニ各検査員ヲ督勵シテ検査ノ敏活統一ヲ圖ラシメ更ニ本所ヨリ時々三名ノ検査監督員ヲ派遣シ検査業務ニ遺憾ナキヲ期シ一面検査ノ傍ラ製品ノ改良實地指導ニ當ラシメツツアリ

検査ヲ受クヘキ水産物ノ種類ハ水産肥料、身欠鰯、外割鰯、鰯鱈、鹽鱈、鹽鮭、鹽鱈、鱈及鮭ノ筋子、開鱈、棒鱈、魚油、昆布、銀香草、海參、乾貝、刺蝦、鰻、鰻鱈、鮓、玉筋魚及小鱈ノ煮乾又ハ素乾魚、タラハ蟹、蝦、北寄貝、鱈及鮭ノ水煮罐詰等ニシテ殆ト主ナル水産製品ヲ網羅セリ而シテ検査實施以來何レモ荷造ノ完全、量目ノ一定品質ノ向上等其成績大ニ見ルヘキモノアリ就中棒鱈、昆布、蟹罐詰ノ如キハ検査ノ等級ニ依リ直ニ取引セラレ當業者ニ於テモ検査ノ必要ヲ認ムルニ至リ大正九年度ニ於テ從來ノ輸出検査ヲ產地検査ニ改定シ更ニ大正十五年魚粕及主ナル製品ニ等級ヲ增加シ検査ノ周密ヲ計ルト同時ニ實地指導ニ一層ノ力ヲ添ヘ樺太水産製品ノ改善向上ニ努メツツアリ

五、水産ニ關スル組合

漁業組合ハ明治四十一年十二月樺太ニ於ケル漁村部落ヲ二十區ニ分テ各區内ニ於ケル定住漁業者ヲシテ漁業組合ヲ組織セシメ之ニ三十九ノ定置漁業權ヲ與ヘタルニ始リ其ノ後大正五年更ニ組合ノ分合新設又

ハ地區擴張等ニ依リ二十八ノ漁業組合ヲ設置シ沿岸各地ノ定住漁業者ヲ全部網羅セシメ免許シタル
 鯉、鱒、鮭ノ定置漁業權ニ加フルニ同專用漁業權ヲ以テシ組合員各自鯉、鱒、鮭ヲ漁撈シ得ルノ途ヲ開
 キタリ近時指導獎勵ノ結果共同施設事業次第ニ行ハレ漸次發達シツツアリテ組合員ノ直接間接ニ負フ所
 ノ利益少カラズ爲ニ漁村ノ基礎漸ク健實ノ域ニ向ツテ進ミツツアリ今各漁業組合ニ於テ行ハル主ナル
 共同施設事業ハ漁業資金ノ貸付、共同販賣、共同貯蓄、遭難救恤、暴風警報周知、講習講話
 其ノ他魚介藻類ノ保護蕃殖等ナリトス且下漁業組合數四十二ニシテ其ノ組合員數三千五百餘名、積立金二
 十二萬圓、共同販賣高百三十萬圓、共同購買高二十萬圓、資金貸付高二十三萬圓、共同貯蓄高七萬圓ニ
 達セリ

六、水産試驗場

水産組合ハ大正十三年迄東海岸建網漁業水産組合、亞庭灣建網漁業水産組合、西海岸建網漁業水産組合
 及之ヲ統ニスル樺太建網漁業水産組合聯合會アリテ専ラ魚族ノ蕃殖保護其ノ他組合員ノ共同利益ノ増進
 ニ力ヲ盡シツツアリシカ大正十四年整理統一ノ意味ヲ以テ全部解散シ同年三月更ニ全島ヲ網羅セル樺太
 定置漁業水産組合ヲ設立セリ

水産試驗場ハ明治四十一年西海岸樂摩ニ設置セラレ當初ハ主トシテ水産製造ニ關スル調査及試驗ノミヲ

爲セシカ大正七年之ヲ擴張シテ漁撈部、製造部、養殖部ノ三部ヲ設ケ水産ニ關スル各種ノ試験及調査ノ
 外分析、鑑定、講習、講話其他實地指導ヲ爲シ斯業ノ獎勵發展ニ努力シツツアリ

七、水産物總價額

種別	大正十四年	大正十五年	昭和二年
鯉	10,768.7	12,796.5	9,905.9
鮭	8,933.3	2,477.1	1,000.5
鱒	2,510.8	4,821.7	3,481.3
蟹	11,000.0	11,111.0	11,000.0
鱈	6,500.0	5,500.0	8,900.0
魚	2,900.0	2,200.0	1,000.0
貝	1,100.0	5,300.0	3,500.0
鮑	3,100.0	4,900.0	4,100.0
鮑	4,500.0	2,700.0	3,100.0
鮑	7,700.0	3,500.0	3,600.0
鮑	1,700.0	4,500.0	4,500.0
鮑	1,600.0	7,400.0	6,500.0
鮑	1,700.0	7,400.0	6,500.0
計	1,700.0	10,000.0	15,700.0

八、水産動植物分布

名	種	分布區域	東海岸	亞庭灣	西海岸	海馬島
おつとせい	海豹	樺太一圓	至自十一月下旬			
あざらし	海豹	樺太一圓	同			
あし	海豹	樺太一圓	同			
い	海豹	樺太一圓	同			
ざとうくちら	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
ながすくちら	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
こくちら	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
はたはた	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
ぶ	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
ま	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
か	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			

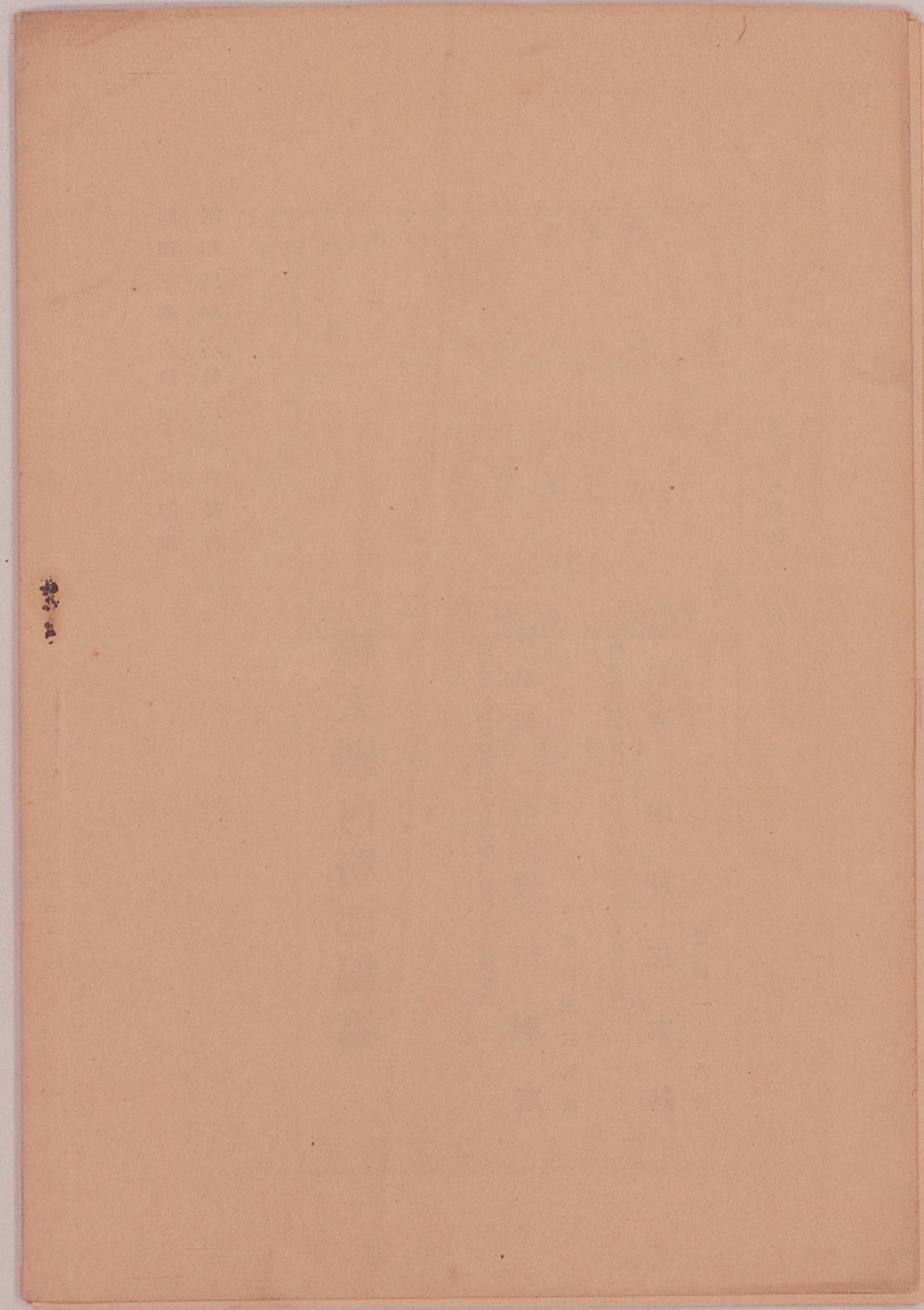
おひよう	亞庭灣	至自七月下旬				
そ	亞庭灣	至自七月下旬				
ほ	亞庭灣	至自七月下旬				
あぶら	亞庭灣	至自七月下旬				
か	亞庭灣	至自七月下旬				
か	亞庭灣	至自七月下旬				
き	亞庭灣	至自七月下旬				
た	亞庭灣	至自七月下旬				
すけとうたら	亞庭灣	至自七月下旬				
こ	亞庭灣	至自七月下旬				
さ	亞庭灣	至自七月下旬				
ふ	亞庭灣	至自七月下旬				
う	亞庭灣	至自七月下旬				
な	亞庭灣	至自七月下旬				
な	亞庭灣	至自七月下旬				
あ	亞庭灣	至自七月下旬				
ま	亞庭灣	至自七月下旬				

いたにくさ	ぎんなんさう	こんのぶ	ふのり	あのり	ちまこ	なまこ	つがふ	いがひ	かぎ	はたてがい	あさかり	ほつきかひ	い
遠淵湖	同	同	同	同	樺太一圓	亞東海岸、海馬島	樺太一圓	遠淵湖、海馬島	遠淵湖	樺太一圓	亞東海岸、西海岸	亞東海岸、西海岸	
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	
九七	九七	八四	八四	八四	九五	八四		九五	八四	八四	九五	九五	
月	月	月	月	月	月	月		月	月	月	月	月	
下	下	下	下	下	下	下		下	下	下	下	下	
旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	
同													
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	八
九六	八四	九七	八四	八四	十五	十三	八四	十四	十三	十四	八四	十四	九
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬
旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬
至自	至自	至自	至自	周		至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	
八四	九七	八四	八四			八四	十四	十四	八四	十四	十四	九八	
月	月	月	月			月	月	月	月	月	月	月	
下	下	下	下			下	下	下	下	下	下	中	
上	上	上	上			上	上	上	上	上	上	上	
旬	旬	旬	旬	年		旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	
至自	至自	至自	至自	周		至自			至自	至自	至自	至自	
八四	九七	八四	八四			八四			八四	八四	九八		
月	月	月	月			月			月	月	月		
下	下	下	下			下			下	下	下		
上	上	上	上			上			上	上	上		
旬	旬	旬	旬	年		旬			旬	旬	旬		

三三

た	あ	ゑ	たらば	かす	てふ	あぶ	ねす	に	こ	し	ち	き	あ	い	名
こ	み	び	か	べ	め	め	め	ん	ご	む	かり	す	う	う	稱
樺太一圓	亞東海岸、西海岸	亞東海岸、西海岸	同	樺太一圓	敷香	同	同	同	樺太一圓	西海岸北部	同	同	同	同	分布區域
至自	至自	同	至自	至自	至自	至自	至自	至自	周	八	至自	至自	至自	至自	東海岸
九八	九五		九五	十五	五	四	九四	九四			十八	八六	八六	八六	期
月	月		月	月	月	月	月	月			月	月	月	月	
下	下		下	下	下	下	下	下			中	下	下	中	
下	下		下	下	下	下	下	下			中	下	下	中	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
至自	至自	同	至自	至自	至自	至自	至自	至自	周	八	至自	至自	至自	至自	亞東海岸
九四	四五		十四	十三	九四	九七					十四	六五	八六	八六	期
月	月		月	月	月	月	月	月			月	月	月	月	
中	中		下	上	下	中	上	中			上	中	中	中	
上	上		上	上	上	上	上	上			上	中	中	中	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
至自	至自	同	至自	至自	至自	至自	至自	至自	周	七	至自	至自	至自	至自	西海岸
九四	九六		十三	九四	七四						六五	十四	八六	六五	期
月	月		月	月	月	月	月	月			月	月	月	月	
下	下		下	上	下	下	下	下			上	上	上	中	
上	上		上	上	上	上	上	上			上	上	上	中	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
至自	至自	同	至自	至自	至自	至自	至自	至自	周	七	至自	至自	至自	至自	海馬島
九四	九四		十三	九四	七四						九四	七四			
月	月		月	月	月	月	月	月			月	月			
下	下		下	上	下	下	下	下			下	上			
上	上		上	上	上	上	上	上			上	上			
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	
旬	旬		旬	旬	旬	旬	旬	旬	年	月	旬	旬	旬	旬	

三三



昭和三年六月

樺太之水産

- 一、漁業制度
- 二、漁業並製造狀況
- 三、養殖狀況
- 四、水産物検査狀況
- 五、水産ニ關スル組合
- 六、水産試驗場
- 七、水産物總價額
- 八、水産動植物分布及季節
- 九、漁業者戸數及漁船數

一、漁業制度

樺太ニ於ケル鯨鮪ノ漁業ハ遠ク松前氏ノ蝦夷ニ封セラレタル時代ニ於テ既ニ邦人ニ依リ行ハレタリシ
カ明治八年千島樺太交換條約ノ結果樺太カ露領ニ屬シタル後ニ於テモ漁業ハ依然トシテ邦人ニ依リ經營
セラレタル歴史ヲ有ス而シテ鯨鮪ノミナラス其他ノ魚族亦尠カラレハ水産ハ樺太ニ於ケル唯一ノ富
源ト目セラレタリ故ニ明治三十八年樺太ノ邦領ニ歸スルヤ水産行政ハ最重要視セラレ殊ニ主要魚族タル
鯨鮪ニ付テハ其ノ魚利ヲ永遠ニ保持シ該漁業ノ健全ナル發達ヲ期セムカ爲メ建網制度ヲ採用シ其ノ漁
場ハ露領時代ニ設ケラレタル漁區ニ基キ之ヲ定メ邦人ノ經營シタル漁場ハ從來ノ經營者ニ免許シ其他ノ
漁場ハ競争入札ニ依リ漁業者ヲ定メタリ鯨鮪以外ノ漁業ニ於テハ鯨鮪ノ蕃殖保護ニ妨ナキ範圍内ニ
於テ一般ニ之ヲ許可シタリト雖是等ノ漁業ニ從事スル者ノ多クハ資力乏シキ樺太定住ノ漁業者ニシテ其
ノ漁業ノ收益ハ鯨鮪ニ比シ尠ク生計ノ維持困難ナル狀況ニ在リシヲ以テ大正四年漁業法規ノ一部ヲ改
正シテ樺太定住ノ漁業者ヲ以テ組織スル漁業組合ニ對シ鯨鮪ノ専用漁場ヲ免許シ其漁業組合員ヲシテ
一般漁業ニ從事スルノ傍ラ鯨鮪ノ漁利ニ均霑セシメ以テ漁業經濟ノ一端ヲ補ハンメタリ超エテ大正十
年専用漁業ノ數ヲ増加シ漁利均霑ノ實ヲ擧クルニ努メ更ニ大正十一年及大正十五年兩度ニ跨ル漁業法規
ノ改正ニ依リ漁業免許ノ入札制度ヲ廢シ其ノ他漁具漁法等モ從前ニ比シ漁制上改革セラレタル點少カラ

而シテ鯨鮪漁業ハ鯨ニ付テハ建網、鯨鮪ニ付テハ建網又ハ瓢網ニ限ラレ又専用漁業ハ鯨ニ付テハ刺網及小建網又ハ地曳網、鯨鮪ニ付テハ小建網又ハ地曳ニ限ラレ孰レモ免許漁業ニ該當スルモノナリ其ノ他鯨刺網、鯨流網、鯨配繩ノ漁業組合ノ組合員ニ限リ許可ヲ受クル資格ヲ有ス但シ樺太ニ在任スル士人ニ對シテハ例外規定ヲ設ケ士人ニシテ士人以外ノ者ヲ使用セス漁業ヲ爲ス場合ニ於テハ免許ヲ要スル漁業ヲ除キ鯨鮪ノ捕獲ニ付テハ慣行ノ區域及特定メラレタル區域ニ於テ其ノ他ノ水族ノ採捕ニ付テハ殆ト之ヲ自由ニ放任セリ

二、漁業竝製造狀況

鯨漁業ハ其ノ産額漁業中ノ首位ヲ占メ東海岸國境ヨリ北知床岬ニ至ル間及中知床岬ヨリ愛郎岬ニ至ル間ヲ除クノ外到ル處之カ漁獲ヲ見サルナシト雖就中近時漁獲最モ多キ地方ハ亞庭灣沿岸及東海岸各地ニシテ西海岸各地及海馬島沿岸ハ昔日ノ如キ漁獲ナキニ至レリ
鯨漁業ハ領有以來僅ニ二十有餘年ニ過キサルモ此ノ間各地方ノ漁況ニハ著シキ變遷ヲ見タリ即チ領有當初ヨリ大正二年ニ至ル頃迄ハ野田ヨリ北部ノ西海岸各漁場ハ最モ優秀ナル漁場ト稱セラレ全島鯨漁獲高

ノ過半數ハ此地方ニ於テ生産セシモ爾後年ト共ニ激減シテ今日復昔日ノ觀ナシ之ニ反シ當時鯨漁場トシテ其ノ價值ヲ認メラレサリシ亞庭灣ニ於ケル各地並東海岸ニ於ケル榮濱以北ノ漁場ハ大正二年頃ヨリ次第ニ其ノ漁獲高ヲ増加シ西海岸北部地方ト全然反對ノ結果ヲ現出シ殊ニ大正十年以來東海岸ハ異常ノ豐漁ヲ見ルニ至レリ

本漁業中定置漁業ニ使用スル漁具ハ明治三十九年ハ露領時代ノ例ニ倣ヒ一漁業權ニ付建網一統及曳網一統ナリシカ翌四十年ヨリ曳網ヲ廢シ副網ニ代ヘ建網ニ統ヲ使用セシメタリ然ルニ大正九年七月漁業法規全般ノ改正ニ依リ一漁業權ニ付一建網ノ制ニ改メ鯨鮪ト鯨ト別個ノ漁業權ト爲シ鯨漁業ニ對シテハ副網ニ代フルニ待網ヲ以テシ建網ノ左右三百間以内ニ於テ之ヲ使用セシムルコトナレリ更ニ大正十一年漁業法規ノ改正ニ伴ヒ待網ニ代フルニ建網ヲ免許シタル爲定置漁業權ハ大正六年度ニ於テ三百六十四ナリシカ現在ハ鯨建網四百六十二鯨鮪飄網又ハ建網二百七十四ニ及ヘリ又専用漁業ニ使用スル漁具ハ大正四年ニ於ケル制度改正ニ際シテハ刺網ノミナリシカ大正十一年更ニ之ヲ改正シテ刺網ト地曳網又ハ船曳網ノ併用ヲ認メ大正十五年更ニ刺網ト小建網又ハ地曳網ヲ使用セシムルコトニ改正セラレタリ而シテ現在専用漁場ノ數ハ六十七ニ達セリ
其ノ他漁業組合ノ組合員ノミニ對シ許可ニ依リ六月十五日ヨリ流網ヲ十月一日ヨリ刺網ヲ使用シテ本漁業ヲ行ハシム

更ニ小建網又ハ地曳網ヲ使用セシムルコト、成レリ
 其ノ他大正十一年以來漁業組合員ニ限リ配細ノ使用ヲ許可セラルルニ至レリ
 鱈ハ冷蔵ニ依リ内地及島内各地ヘ生賣セラルルモノ及罐詰原料ニ供スルモノ次第ニ増加スルニ至レルモ
 尙其ノ大部分ハ漁業者ノ手ニ依リ鹽鱈ニ製セラル

鱈 漁 獲 高

(生鮮重量ニシテ一尾三百四十
 六匁トシテ計算シタルモノ)

年度	支離別	敷	香	元	泊	豊	原	大	本	斗	真	岡	泊	居	計
大正十四年		五、六、六〇	一、四、九三	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇	一、六、八〇
大正十五年		三、五、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三
昭和二年		一、五、八六	四、三、〇〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇	二、六、三〇

鱈 製品及生賣 昭和二年(單位ハ貫、罐詰及油ハ匁)

品種	支離別	敷	香	元	泊	豊	原	大	本	斗	真	岡	泊	居	計
鱈 罐		五、八、八〇	三、五、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三
鱈 箱		三、五、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三
鱈 子		一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三
鱈 諸		一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三	一、八、七三

鮭

鮭ハ夏期ト秋期ト二期ニ漁獲セラレ前者夏鮭又ハ時しらずト稱シ後者ヲ秋あちト稱ス鮭ハ多量漁獲
 ヲ見ル區域狹ケレトモ豊凶ノ差大ナラス夏鮭ハ東海岸敷香附近ヲ主産地トス該地方ニ在リテハ一漁場ニ
 テ漁獲高六萬貫内外ニ達スルモノアレトモ其ノ他ノ地方ハ甚タ稀薄ナリ秋鮭ハ西海岸内部ニ位スル多蘭
 泊、麻内、阿幸及南名好川附近並東海岸ニ於ケル内淵川附近漁場ニ多産シ一漁場三萬貫以上ヲ漁獲スル
 モノアリ

本漁業ニ使用スル漁具ハ配繩ヲ除クノ外ハ鱈漁業ト同一ナリ

鮭ハ鱈ト同ク其ノ大部分ハ漁業者各自ニ依リ鹽鮭ニ製セラレ其ノ一部ハ冷蔵ニ依リ生賣セラレ又罐詰原
 料ニ供セラル、近時鮭燻製品ノ製造ヲ企圖スルモノアルニ至リシト雖尙其ノ産額多カラズ

鮭 漁 獲 高

(生鮮ノ重量ニシテ一尾九百五
 十匁トシテ計算シタルモノ)

年度	支離別	敷	香	元	泊	豊	原	大	本	斗	真	岡	泊	居	計
大正十四年		一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
大正十五年		一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
昭和二年		一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇

年度	支離別	散	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	眞	間	泊	居	計
大正十四年		一四、九七五	一七、八	三〇、〇〇一	五、八三三	四、〇七五	三、五九六	三、七三三	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六
大正十五年		三、五九六	四、〇七五	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六	三、五九六
昭和二年		二、〇五五	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七

鮭製品及生賣 昭和二年(單位ハ貫、諸ハ函)

品種	支離別	散	香	元	泊	豊	原	大	泊	本	斗	眞	間	泊	居	計
鮭		二、〇五五	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
鮭子		一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
鮭生賣		一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
鮭罐詰		一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
計		一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七

鮭ハ全島沖合一帯ニ之カ棲息ヲ見サルナシト雖就中其ノ主産地ト稱セラルルハ西海岸ニ於ケル野田方面ヨリ南方武意泊ニ至ル間ニシテ該地方ニテハ夏期三ヶ月ヲ除クノ外本漁業ニ従事セリ同地方ニ於ケル盛漁期ハ所謂春漁季節即二月ヨリ六月ニ至ル時期ニシテ此期間ニ於ケル漁獲高川崎船一隻ニテ三萬尾乃至

四萬尾發動機付漁船一隻ニテ五萬乃至十萬尾ノ多量ニ及フ十月ヨリ翌年一月ニ至ル秋冬漁ハ出漁日數等ノ關係上漁獲高春漁ノ半ニ達セス近時在來ノ川崎船ニ依ル漁法ヲ改善シテ發動機付漁船ヲ使用スルモノ多數ニ達シタルト一面亞庭灣内漁村ノ夏及秋鮭漁業東海岸中部以南漁村ノ秋鮭漁業次第ニ發達シタル爲逐年其漁獲高ヲ増加スルノ趨勢ニ在リ而シテ本漁業ハ専ラ配繩漁業ナリトス

鮭ハ主トシテ棒鮭ニ製スレトモ夏季温暖ナル時期ニ於テハ主トシテ搾粕又ハ開鮭ニ製セラレ冬期ハ鹽鮭トシテ毎冬三萬尾以上移出セラル尙棒鮭搾粕開鮭ノ外歐米輸出向鮭特ニ「ストックフイツシユ」ノ製造ハ大正六年ヨリ企業セラレ大正八年ノ如キ其ノ年産額二十五萬五千貫ノ多キニ達セシコトアリト雖大正九年以降歐米市場ノ變動ト一般經濟界ノ打撃トニ依リ其ノ事業ヲ緊縮セルヲ以テ産額頓ニ減少シ現時歐米輸出向製品ノ製造ハ殆ト休止ノ状態ニ在リ

鮭ノ副産品タル鱈肝油ハ主トシテ肝油製造業者ニ依リ製造セラレ主要ナル鱈漁業地ニ其ノ工場ヲ見サルハナシ製品ハ工用油及藥用肝油ノ二種ニシテ其ノ産額大正十年以降市價暴落ノ結果製油量著シク減セシト雖毎年二萬函ニ達ス

鱈漁獲高

(生鱈ノ重量ニシテ一尾八百
如トシテ計算シタルモノ)

年度	支應別		計
	數	香元	
大正十四年	二	二	四
大正十五年	三	三	六
昭和二年	四	四	八
計	九	九	一八

鯨製品及生賣 昭和二年(單位ハ貫、油ハ匁)

品種	支應別	數	香元		大泊		本斗		眞岡		泊居		計
			元	匁	元	匁	元	匁	元	匁	元	匁	
鯨身	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
鯨骨	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
鯨油	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計		3	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300

鯨ノ種類ハ十數種ニ及ヒ到ル處之カ棲息ヲ見ル本漁業ハ延繩及手線網漁業ノ二種ナリシモ最近發動機船ニ依ル底曳網漁業續出セリ鯨ハ生賣セラルルノ外ハ悉ク搾粕ニ製造セラル

鯨漁獲高

(生鯨ノ重量ニシテ百石ヲ一ニ)

年度	支應別		計
	數	香元	
大正十四年	八	八	一六
大正十五年	五	五	一〇
昭和二年	三	三	六
計	一六	一六	三二

鯨製品及生賣

昭和二年(單位ハ貫、油ハ匁)

品種	支應別	數	香元		大泊		本斗		眞岡		泊居		計
			元	匁	元	匁	元	匁	元	匁			
鯨身	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
鯨骨	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
鯨油	香元	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計		3	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300

蟹ノ最モ多ク利用セラルルモノハ「タラバカニ」ト稱スルモノニシテ全島到ル處ニ棲息スト雖就中西海岸及亞庭灣口内外ニ多産シ専ラ刺網ヲ使用シテ漁獲セラルル明治四十二年以降罐詰製造業勃興シ本漁業ノ隆盛ヲ來セシカハ之カ濫獲ノ弊ニ陥ランコトヲ虞レ蕃殖保護ノ爲一般ニ雌蟹及背甲五寸以下ノ稚蟹ノ漁獲ヲ禁止シ且一定ノ禁漁期ヲ設クル等力メテ漁利ノ維持ヲ圖レリ蟹ハ樺太領有以來島内ニ於テ食膳ニ供セラルルモノヲ除クノ外全部罐詰及塩詰ニ製造セラルル蟹罐詰ハ大正六年其ノ産額十二萬圓價額三百十六萬五千餘圓ニ上レルモ次第ニ蟹漁獲高減少ノ傾向ヲ見ルニ至リタルヲ以テ工場ノ合同ヲ行ヒ其ノ着業工場ヲ十餘ヶ工場ニ減シ蟹ノ濫獲ヲ防キ一面製品ノ改良統一ニ力ヲ致シ樺太ノ重要水産物ノ一トシテ其ノ聲價ヲ擧クルニ努メツ、アリ販路ハ主トシテ米國ナレトモ歐洲各國特ニ英國ニ輸出セラルルモノ尠カラ

年度	蟹 漁 獲 高						合計
	蝦	香	元	泊	豊	原	
大正十四年	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正十五年	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
昭和二年	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

蟹製品及生賣

昭和二年

品 種	支 離 別	蟹 製 品 及 生 賣						合計
		蝦	香	元	泊	豊	原	
蟹 罐 詰	罐 詰	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
蟹 塩 詰	塩 詰	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
蟹 生 (除製造原料)	生	1,500	7,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

昆布

昆布ハ其ノ分布頗ル廣ク全沿岸始ト産セサルハナシ然レトモ主ナル産地ハ西海岸及亞庭灣ニシテ西海岸ニ於テハ有部以南西能登呂ニ至ル間及海馬島ハ産額最モ多ク品質亦優良ナリ亞庭灣ニ於テハ大泊長濱間産額相當ニシテ品質亦西海岸ニ次ク東海岸ハ一般ニ品質劣レリ昆布ハ豊凶隔年ニシテ凶年ニハ豊年ノ二分ノ一ニモ達セサルコトアリ

昆布ハ漁業者各自ニ依リ昆布ノ種類品質等ニ應シ反昆布、長切昆布、花折昆布、細目昆布、トロロ昆布島田昆布等ノ製品ニ製造セラレ食用ニ堪ヘサルモノハ沃度製造ノ原料トシテ「ケルブ」ニ製セラル沃度

及加里製造業ハ大正六七年頃各海岸到處盛ニ從業セラレシモ一時全ク休業ノ状態トナリタルモ昭和三年ニハ二ヶ所ノ着業ヲ見タリ

品名	支離別		元	泊	壘	原	大	泊	本	斗	眞	岡	泊	居	計	價	額
	香	元															
反長切昆布																	
花折昆布																	
島田昆布																	
猫足昆布																	
共計																	

鯨ハ春夏ノ候各海岸近クニ洄游スルモノ尠カラズ種類ハ長須ヲ主トシ座頭之ニ亞ク捕鯨業ハ現在東洋捕鯨株式會社ニ依リ亞庭灣内札塔ニ根據ヲ構ヘ毎年捕鯨船一隻乃至二隻ヲ使用シ從業セラル捕獲頭數ハ年ニ依リ消長アリト雖大正十年ノ如キハ八十二頭ノ多數ニ達シ大正十五年ハ四十九頭昭和二年ハ三十九頭ヲ捕獲セリ

鯨 鯨 鯨

海豹島ハ東海岸北知床岬ノ南方十哩ニ在ル長サ二百五十間幅三十間ノ一岩島ニシテ四周ハ沙濱ヲ繞ラシ全長三百五十間幅五十間ニ過キスト雖米領「プリビロフ」並露領「コンマンドルスキ」群嶋ト共ニ鯨ノ繁殖場トシテ世界ニ併稱セラル
明治四十四年十二月日、英、米、露ノ四ヶ國間ニ鯨保護條約締結セラルルヤ北太平洋上ニ於ケル鯨ノ海上獵獲ヲ禁止シ各締約國政府ニ於テ年々獵獲スヘキ數ヲ定メ國際的ニ其ノ保護蕃殖ノタメ最善ノ努力ヲ拂フコトナリ我海豹島ニ於ケル鯨ノ數モ年々著シク其ノ數ヲ増シ之ニ伴ヒ分娩スル兒數亦逐年増加スルニ至レリ即チ條約締結ノ當年最大上陸頭數七千四百一頭産兒數二千七百頭ナリシカ大正六年ニハ上陸頭數一万五千五百十五頭産兒數三千九百八十八頭ニ達シ更ニ昭和二年ニハ上陸頭數二万八千九百八十八頭産兒數一万一千八百六十六頭算スルニ至リ七、八月ノ交尾期ヨリ九、十月ノ交ニ亘リ沙濱及波打際ニ群集シテ本能的ニ活動セル壯觀ニシテ加フルニ沙濱ニ依リテ圍繞セラルル高サ五十尺ノ岩丘上並其ノ崖縁ニ蟬集セル海鳥ハ數萬ニ達シ鯨ノ群集ト相俟ツテ眞ニ天下ノ奇觀ヲ呈ス
海豹島ニ於ケル鯨ノ保護並獵獲ニ付テハ樺太廳ハ毎年吏員ヲ派遣シテ之ニ當ラシメ蕃殖上有害ト認ムル一切ノ行爲ヲ禁止スルト共ニ條約ノ範圍内ニ於テ蕃殖上關係ナキ三、四才牡獸及老牡獸ノ撲殺ヲ爲シ其ノ獸皮ハ英、米、露ノ各締約國ニ對シ一割宛ヲ分配シ肉、内臟其ノ他ハ鹽藏シ或ハ乾燥シテ國內

ニ於テ販賣セリ最近年々ノ販獲數千五百頭内外ナリ

三、養殖狀況

本島ニ於ケル養殖ノ主ナルモノハ、河川養殖ニ屬スル蛙人工孵化ニシテ孵化場ハ現在幌内川及多蘭泊川ニ於ケル應譽孵化場二、幌内川、内淵川、阿幸川及麻内川ニ於ケル民營孵化場四在リ孵化装置ハ孰レモ簡易式ヲ採用シ昭和二年度ニハ二千七百十粒ヲ採卵孵化放流セリ最近諸般ノ事業ノ勃興ニ伴ヒ鱒ノ天然蕃殖ニ障害ヲ與ウルモノ尠カラサルヲ以テ年々應譽又ハ民營ノ孵化場ヲ増設シテ之カ蕃殖ヲ圖ルノ方針ヲ採レリ其他湖沼、池中及淺海養殖ニ屬スルモノニハ遠淵湖ニ於ケル寒天原藻タル伊谷草及牡蠣ノ養殖、池中ニ於ケル鯉、鮒類ノ養殖並漁業組合ノ施設ニ屬スル昆布其ノ他有用藻類蕃殖保護ノ爲メノ投石雜藻去除等ノ實施ヲ見ルト雖尙ホ試験的施設ノ範圍ヲ脱セス

四、水産物検査狀況

水産物ノ改善ヲ圖ルニハ之カ検査ヲ行フヲ以テ最モ緊要ナル事項ナリトス之ヲ以テ明治四十三年西海岸南部水産組合ノ鱒、昆布等ノ検査ヲ實行センヲ始トシ建網漁業水産組合、亞庭灣水産組合及諸詰業水産組合等相繼テ之カ實行ニ着手シ其ノ成績見ルヘキモノナキニ非サリシモ管下全般ニ對シテ其ノ統一ヲ缺キ未タ完全ナル検査ヲ行フヲ得サリキ仍テ其ノ統一ヲ計リ検査ノ目的ヲ貫徹セムカ爲大正三年始テ樺太

廳ニ水産物検査所ヲ設置シ爾來今日ニ及ヘリ現在ニ於テハ検査員六十名ヲ沿岸各所ニ駐在セシメ一定ノ擔當區域ヲ絶ヘス巡回シテ検査ヲ行ハシム尙極要ノ地十ヶ所ニ一名宛ノ検査主任ヲ配置シ検査ヲ爲スト共ニ各検査員ヲ督勵シテ検査ノ敏活統一ヲ圖ラシメ更ニ本所ヨリ時々三名ノ検査監督員ヲ派遣シ検査業務ニ遺憾ナキヲ期シ一面検査ノ傍ラ製品ノ改良實地指導ニ當ランメツツアリ

検査ヲ受テヘキ水産物ノ種類ハ水産肥料、身欠鰯、外割鰯、鰯鱈、鹽鮭、鹽鱈、鹽鮒、鱈及鮭ノ筋子、開鱈、棒鱈、魚油、昆布、銀杏草、海參、乾貝、刺蝦、鰻、鮫鱈、鮪、玉筋魚及小鰯ノ者乾又ハ素乾魚、タラバ蟹、蝦、北寄貝、鱈及鮭ノ水煮罐詰等ニシテ殆ト主ナル水産製品ヲ網羅セリ而シテ検査實施以來何レモ荷造ノ完全、量目ノ一定品質ノ向上等其成績大ニ見ルヘキモノアリ就中棒鱈、昆布、蟹罐詰ノ如キハ検査ノ等級ニ依リ直ニ取引セラレ當業者ニ於テモ検査ノ必要ヲ認ムルニ至リ大正九年度ニ於テ從來ノ輸出検査ヲ產地検査ニ改定シ更ニ大正十五年魚粕及主ナル製品ニ等級ヲ増加シ検査ノ周密ヲ計ルト同時ニ實地指導ニ一層ノ力ヲ添ヘ樺太水産製品ノ改善向上ニ努メツツアリ

五、水産ニ關スル組合

漁業組合ハ明治四十一年十二月樺太ニ於ケル漁村部落ヲ二十區ニ分チ各區内ニ於ケル定住漁業者ヲシテ漁業組合ヲ組織セシメ之ニ二十九ノ定置漁業權ヲ與ヘタルニ始リ其ノ後大正五年更ニ組合ノ分合新設又

ハ地區擴張等ニ依リ二十八ノ漁業組合ヲ設置シ沿岸各地ノ定住漁業者ヲ全部網羅セシメ罷ニ免許シタル鯨、鯔、鮭ノ定置漁業權ニ加フルニ同專用漁業權ヲ以テシ組合員各自鯨、鯔、鮭ヲ漁撈シ得ルノ途ヲ開キタリ近時指導獎勵ノ結果共同施設事業次第二行ハ漸次發達シツツアリテ組合員ノ直接間接ニ負フ所ノ利益少カラス爲ニ漁村ノ基礎漸ク健全ノ域ニ向ツテ進ミツツアリ今各漁業組合ニ於テ行ハルル主ナル共同施設事業ハ漁業資金ノ貸付、共同販賣、共同貯蓄、遭難救恤、暴風警報周知、講習講話其ノ他魚介藻類ノ保護蕃殖等ナリトス目下漁業組合數四十二ニシテ其ノ組合員數三千五百餘名、積立金二十二萬圓、共同販賣高百三十萬圓、共同購買高二十萬圓、資金貸付高二十三萬圓、共同貯蓄高七萬圓ニ達セリ

水産組合ハ大正十三年迄東海岸建網漁業水産組合、亞庭灣建網漁業水産組合、西海岸建網漁業水産組合及之ヲ統一スル權太建網漁業水産組合聯合會アリテ専ラ魚族ノ蕃殖保護其ノ他組合員ノ共同利益ノ増進ニ力ヲ盡シツツアリシカ大正十四年整理統一ノ意味ヲ以テ全部解散シ同年三月更ニ全島ヲ網羅セル權太定置漁業水産組合ヲ設立セリ

六、水産試驗場

水産試驗場ハ明治四十一年西海岸樂磨ニ設置セラレ當初ハ主トシテ水産製造ニ關スル調査及試驗ノミヲ

爲セシカ大正七年之ヲ擴張シテ漁撈部、製造部、養殖部ノ三部ヲ設ケ水産ニ關スル各種ノ試驗及調査ノ外分析、鑑定、講習、講話其他實地指導ヲ爲シ斯業ノ獎勵發展ニ努力シツツアリ

七、水産物總價額

種別	大正十四年	大正十五年	昭和二年
鯨	10,766,870	11,797,655	9,970,976
鯔	8,933,333	2,661,388	10,491,913
鮭	2,540,000	2,403,770	3,048,340
鱈	1,000,100	1,111,000	1,197,850
鱧	600,000	550,000	900,000
蟹	220,000	220,000	1,000,000
貝類	3,200,000	5,200,000	3,500,000
昆布	220,000	500,000	3,500,000
鮫	3,600,000	4,900,000	4,000,000
魚	1,400,000	1,700,000	3,000,000
其他類	1,000,000	1,000,000	1,500,000
計	17,766,870	20,010,000	15,700,000

八、水産動植物分布

名	種	分布區域	東海岸	亞庭灣	西海岸	海馬島
おつとせい	海豹	樺太一圓	至自十一月下旬			
あざらし	海豹	樺太一圓	同			
あし	海豹	樺太一圓	同			
い	海豹	樺太一圓	同			
ざとうくちら	海豹	東海岸、亞庭灣	至自八月下旬			
ながすくちら	海豹	同	至自八月下旬			
こくちら	海豹	樺太一圓	至自八月下旬			
はたはた	海豹	同	至自八月下旬			
ぶ	海豹	同	至自八月下旬			
さ	海豹	同	至自八月下旬			
ま	海豹	同	至自八月下旬			
か	海豹	同	至自八月下旬			

名	種	分布區域	東海岸	亞庭灣	西海岸	海馬島
おひよう	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
そ	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
ほ	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
あ	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
か	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
か	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
た	海豹	樺太一圓	至自七月下旬			
すけとうたら	海豹	同	至自七月下旬			
こ	海豹	同	至自七月下旬			
さ	海豹	同	至自七月下旬			
ふ	海豹	同	至自七月下旬			
う	海豹	同	至自七月下旬			
な	海豹	同	至自七月下旬			
あ	海豹	同	至自七月下旬			
ま	海豹	同	至自七月下旬			

九、定住漁業者戸數及漁船數

昭和二年十二月末日現在

支應	戸數		漁船數	
	専業	兼業	動力有	動力無
香泊	105	3	1	411
元泊	100	3	1	199
豐原	185	5	7	26
大泊	145	5	6	5,000
本斗	43	3	5	76
真岡	53	7	1	300
泊居	252	12	6	53
合計	3,275	10	4,76	1,013

昭和三年六月二十七日印刷
昭和三年六月三十日發行

樺太廳内務部編纂

樺太豊原郡豊原町大字豊原字大通南三丁目四番地
印刷所 中 沖 印刷所
電話 五三九番
印刷者 中 沖 庄 太郎
電話 一三六番

